

見ないで描いてみたら…

みどり・あずま小でESD授業

ヤマメ通して自然環境学ぶ



実物を見ないでヤマメの絵を描く児童
ら(あずま小で)

ヤマメの飼育を通してふるさとの自然環境を学ぶ授業が18日、みどりの市立あずま小学校(新井博介校長)で行われ、4年生と5年生が色や模様の特徴を思い浮かべながら、ヤマメの絵を描いた。持続可能な開発のための教育(ESD)の一環として、環境省で

は既存の環境教育プログラムを地域化する取り組みを進めている。あずま小で展開しているヤマメをテーマにした授業もその一つ。事業を請け負うチャウス自然体験学校ではこの日、両毛漁業協同組合や県水産試験場などの協力を受け、昨年12月に続いて2度目の

ヤマメ授業を繰り広げた。

児童らは稚魚の飼育を通じて、普段からヤマメの観察を続けている。ただ、この日のテーマはヤマメを見ないで描くこと。

11人の児童は3班に分かれ、さっそく絵画に挑戦。細長い魚体に目や口をつけ、パーマ

ークと呼ばれる楕円(たえん)形の模様を描くと、背びれや尾びれ、胸びれなどを描き込みうっすらと赤いラインを加え、完成させた。

その後、両毛漁協組合長の中島淳志さんらと一緒に答え合わせ。「ひれは8枚です」「水の動きを感じ取る側線があります」「あぶらびれには筋があります」「など、説明を受けながら、改めてヤマメの特徴を確認した。

「パーマークも全員描けていた。子どもたちはよく観察している」と、関係者らは驚いた様子。

3月には稚魚放流

学校での授業は今回で終了。チャウス自然体験学校があずま小版の環境教育プログラムにまとめる。3月1日には稚魚のヤマメを黒坂石川に放流する予定だ。